

全教栃木 教育新聞

発行
全栃木教職員組合
宇都宮市兵庫塚3-10-30
TEL 028-653-0353
FAX 028-653-1579
http://
www.zenkyotcg.org
E-mail
info@zenkyotcg.or

子ども参加、父母共同の
学校づくりを
長時間過密労働をなくそう
教員免許更新制を廃止させよう

全栃木教職員組合への回答は、校長会等で報告するようにしたい！

全教栃木は県教育委員会と「折衝」を実施しました

全栃木教職員組合は12日、教職員課との「折衝」を行いました。「折衝」では私たちへの回答が、すべての職場で担保されることを求めました。須藤誠治教職員課小中人事担当課長補佐は「交渉結果は校長会等でしっかり報告したい」と回答しました。折衝での回答を紹介します。

地区中体連主催大会は出張とすべき

組合 中体連、高体連主催大会の生徒引率については出張とすること。
教委 児童生徒の学習状況を分析し、一人一人の課題を明確にするとともに、各学校の学習指導のPDCAサイクルを構築して、学習指導の充実を図るため、来年度から悉皆の学力調査を行うことにしたので理解してほしい。

組合 県中体連の「申し合わせ」のとおりに、出張として扱うよう、市町教委とも連携して対応していきたい。
組合 「全国学力調査」を廃止するよう国に求めること。県教委として競争的な教育を行う



篠原章彦執行委員長（左から3人目）と全教栃木の交渉団。

組合 悉皆の学力調査は、これまでの基礎基本重視からの転換

国、県、市町すべてが悉皆調査をやることになるが、これほど調査をしないと学力はわからないのか。授業も調査を意識したものになっていく。高校入試は正答率が1%のような難問が出題されている。高校はこどもたちにどんな学力を求めているのか。悉皆調査で測る学力と高校入試で求める

学力は同じものなのか。こうした検討もしているのか。
教委 入試もこの流れに沿っていく中で変わっていく方向にあると思う。入試担当は教



須藤誠治教職員課小中学校担当課長補佐（右から4人目）。

臨時者の「教職員評価」は本人の同意を得たい

と考えている。
組合 やらないことを明言している。やるなら書き換えるべきである。

教委 臨時採用者

から先生とよばれるのだから、正規採用と同じように対応させている。本人の資質向上と勤務意欲の向上を目的にしている。「やらなくてもよい」と伝えると逆に差別してしまうことになる

職員課ではないので、出された意見は担当課・室にしっかり伝えたい。
組合 教員免許更新制の廃止を国に求めること。
講習の申し込みはネットで行われる。この申し込みは勤務時間中でもないか。勤務時間外に申し込んだらキャンセル待ちだった。勤務よりも更新が気になる現状は尋常ではない。

私は夏休み最後の土日に宇大で受講し、その他は東京で受講。県内の大学で勤務時間外に申し込んだら受講ができるだけの講座を開講してくれるよう、大学に要請してほしい。
教委 県からも現場の話し合い等で伝えていきたい。

使用する責任のあいまいな採用前研修は行わないこと。
教委 研修への参加は任意である。参加者からは研修の内容について、好評を得ている。
組合 異動先も含めた異動情報を本人に適宜知らせて合意を得るようにすること。小中学校教職員に対して、内々示で転出先の校名を伝えること。

小中学校は教職員数の確定がぎりぎりまでかかることがある。内示直前に異動先が変わったこともあったので、異動先を内々示で伝えることはできない。
組合 岩舟町や芳賀町のような例について検討したのか。
教委 昨年指摘されたことでもありますが、内々示で校名まで知らせることはできない。

正規採用と同様に扱うと言いつながら、職名は教諭にしないではないか。県教委のこの回答はHPに掲載したい。すべての管理職に徹底してほしい。
教委 交渉で回答している。校長会等で必ず、間違いなく伝えていきたい。

使用する責任のあいまいな採用前研修は行わないこと。
教委 研修への参加は任意である。参加者からは研修の内容について、好評を得ている。
組合 異動先も含めた異動情報を本人に適宜知らせて合意を得るようにすること。小中学校教職員に対して、内々示で転出先の校名を伝えること。

小中学校は教職員数の確定がぎりぎりまでかかることがある。内示直前に異動先が変わったこともあったので、異動先を内々示で伝えることはできない。
組合 岩舟町や芳賀町のような例について検討したのか。
教委 昨年指摘されたことでもありますが、内々示で校名まで知らせることはできない。

講演会 『放射線量を測る文化を』

講師 手塚 郁夫さん 今市病院情報管理室長 宇都宮大学非常勤講師 NPO「なんとなくのにわ」理事長

日時 2013年11月16日 午後2時～ 受付午後1時30分 ※資料代 300円

会場 宇都宮市文化会館第2会議室

主催 全栃木教職員組合県立学校支部

職場活動の活性化、組織の拡大・強化を目指す全国交流集会



9月28、29日「職場活動の活性化、組織の拡大・強化を目指す全国交流集会」が全教本部で開催されました。私は分會として参加し、今年度になって芳賀支部に新しく

9月28、29日「職場活動の活性化、組織の拡大・強化を目指す全国交流集会」が全教本部で開催されました。私は分會として参加し、今年度になって芳賀支部に新しく

全日本教職員組合（全教）はすべての組合員の参加が保障される様々な学習交流集会を開催して、要求の実現と組合活動の進展、組合員拡大の経験とともに学んでいます。どんな発言も大切にされ、それが組合への活動に反映されていきます。

二つの集会について組合員の報告を紹介します。

組合活動は、学習と交流が大事！

また、新組合員の加入後の取組がより重要だと考え、若い組合員の「学びたい！」「何か楽しいことをしたい！」という要求に応えられるようにしようという支那での取り組みなどについて具体的に4つの報告をいたしました。

1つ目は、「組合運動の歴史」について退職された元組合員の講演会。2つ目は、若い組合員が企画した「教員採用試験打上げ飲み会」。3つ目は、「栃木の教育を考える集会」（県教育サークル協議会主催）への参加。そして、4つ目は、今後教育誌「クレスコ」をテキストに定期的に学習会を開くことを決めたこと。

これらの取組を今後も継続させ、新たな組合加入者を増やしていきたいことを報告しました。この栃木での取組は、多くの参加者から共感をもつて受け止められました。多くの他組織のとりも参考になる取組の報告に、刺激と元気をもらって帰ってきました。

（平野秀雄全教栃木執行副委員長）

全国女性教職員学習交流集会 in 宮城

10月12、13日に、仙台市秋保温泉の「ホテルニュー水戸屋」で開かれた「全国女性教職員学習交流会」に宮城に参加してきました。

1日目の全体会でははじめに、仙台市の教員を中心に結成したサークルのみなさんが太鼓を演奏してくださいました。



全教栃木も加盟している栃木県労働組合総連合（栃木県労連）の第24回大会が、9月28日に開催されました。全教栃木からは篠原章彦執行委員長が、青年の組合加入、原発問題での講演会、学力テストや免許更新などでの署名活動、公務員に対する賃下げ攻撃とのたたかいなど、これまでの組合活動について報告しました。

全教栃木の活動について、武藤和志（たかし）事務局長は「篠原さんは、組合活動は世界平和とすべての子どもたちの幸せのためという壮大な目標を持って取り組むことが必要と締めくくった。この発言は、県労連役員はもちろん大会参加者の共感を得ていた」と、大会の総括答弁で紹介しました。

記念講演後には、宮城の教職員による、合唱を交えた構成劇の発表がありました。宮城の方々の被災地の復興に向けたこ

ノブイリと福島ー福島原

「記念講演では、フォトジャーナリストの森住卓さんが「チェルノブイリと福島ー福島原の被災地をめぐって」をテーマに、宮城の方々の被災地の復興に向けたこ



2日目は、基礎講座に参加しました。講師は尚綱学院大学教授の岩倉政城氏でした。医学

的な面から見た「他者とならうとする心の核はどこから生まれるのだろうか」という題名で、有名な歌手の歌を聴き、歌詞を問題と照らし合わせて分析しながら語りかけてくださいました。

世界的にみると、日本の子どもの孤独感が高いそうです。啞然としました。「幼い頃から積み重なった「触れ合う」という五感の体験不足が主な原因だ」ということです。それを聞いて、子どもとのスキミングはとても大切なんだと感じました。

他の県の先生方とも交流し、お互いの職場などの情報交換をしました。刺激になり、多くのことを学べた2日間でした。

（芳賀支部の女性組合員）